

医学系研究科 保健学専攻

学位プログラム： 次世代のがんプロフェッショナル養成プラン がん免疫療法・がん予防のための免疫診断
授与する学位： 修士（保健学）

教育目標

大阪大学及び医学系研究科保健学専攻の教育目標のもと、将来、医療分野でのキャリアを目指す学生を対象に、がん免疫学およびがん生物学に関する知識を習得し、研究を通じてがん免疫学、特にがん免疫療法・がん予防のための免疫診断の分野で悪性腫瘍に関する新たな検査法および治療法の開発に独自の視点をもって自主的に取り組むことができるように教育します。

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

高度な専門性と学識を高めるためにがんの発生および悪性化に関与する因子、がんに対する免疫監視、がんワクチン、免疫療法と相補いその効果を増強する新たな治療法のいずれかについて研究し、がんの発生から発症、治療のサイクルの中で大きな役割を果たすがん免疫についての理解を深められるように指導します。

○高度な教養

培ってきた教養と深い専門知識を更に発展させて、どのような医療現場においても、柔軟な思考と応用ができるように能力を養成します。

○高度な国際性

高度な専門知識、技術と語学力を高め、国際的な学会や意見交換の場で自分の考えを英語で述べるができるように指導します。

○高度なデザイン力

自分の研究テーマのみならず、様々な文献や情報をグローバルに収集し、研究を多角的な視点から展開するデザイン力を養います。

○独自の教育目標

修了時までにはがん免疫療法・がん予防のための免疫診断に関する研究論文を完成できるように指導します。免疫療法やがん予防において重要な腫瘍免疫能を評価する能力や個人個人の免疫能に基づいて個別化されたがん治療法を開発する能力を身につけさせます。実際の研究過程を通じて、考える力を養成し、将来がん免疫学、特にがん免疫療法・がん予防のための免疫診断の分野でリーダーとして信頼される人材の育成を目指します。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

大阪大学及び医学系研究科保健学専攻のディプロマ・ポリシーのもと、「がん免疫療法・がん予防のための免疫診断コース」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。がん免疫学、特にがん免疫療法・がん予防のための免疫診断の分野で悪性腫瘍に関する新たな検査法および治療法の開発に関わるキャリアを目指す学生を受け入れ、ディプロマ・ポリシーに書かれた能力を身につけ所定の単位を修得するとともに所定の研究指導を受け修士論文を提出した学生に学位（修士（保健学））を授与します。

○**最先端かつ高度な専門性と深い学識**

・医療科学の領域で研究を遂行できる基礎学力と高度な専門性と深い学識・教養、高い倫理性を備えている

○**高度な教養**

・医療専門職としてふさわしい高い倫理観と人間性を身につけ、常に医療のプロフェッショナルであるという自覚のもとに、社会の発展のために積極的に貢献できる

○**高度な国際性**

・国際専門誌の読解力と、自身の研究の社会への説明能力を有している

○**高度なデザイン力**

・学問の府たる大学としての自主性、独創性があり、研究の視点として理論と実証の両面を備える研究テーマを設定できる

・課題に対する新たな評価法を提案でき、問題解決能力を身につけ、基盤技術を構築できる

○**独自の学習目標**

・免疫療法やがん予防において重要な腫瘍免疫能を評価する能力や個人個人の免疫能に基づいて個別化されたがん治療法を開発する能力を有し、将来の医療へ貢献できる研究を推進できる能力を有している。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

大阪大学及び医学系研究科保健学専攻のカリキュラム・ポリシーのもと、「がん免疫療法・がん予防のための免疫診断コース」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。柔軟な思考力、高度な医療の知識、研究者としての高い倫理性が持てるような教育システムになっています。

<教育課程編成の考え方>

博士前期課程では、医療科学の領域の専門分野の研究に必要な最先端の高度な講義、演習、実験、実習を履修させ、指導教員からの研究指導の下に修士論文を作成させます。

必要な授業科目を履修する過程において、医療科学の領域で研究を遂行する基礎学力と高度な専門性と深い学識・教養を身につけさせ、演習での発表や研究の進捗状況報告の過程の中で研究の視点として理論と実証の両面を備える研究テーマを自ら設定できる能力や臨床での課題を発見し解決する能力を身につけさせるとともに、他者からの視線にさらすことにより高い倫理性を身につけさせます。また、基本的に科学論文を英語で読むことを必要とするため、英語で行われる講義の受講、英語による研究発表を行うことにより、高度な国際性を身につけさせます。

<学修内容及び学修方法>

博士前期課程では、2年間以上在学しその間に専門科目、高度教養教育科目、高度国際性涵養教育科目をそれぞれ所定の単位数を充足し、必要な研究指導を受けた上、指導教員から論文指導を受け修士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格すれば修了し、学位を授与します。

がんの発生および悪性化に関与する因子、がんに対する免疫監視、がんワクチン、免疫療法と相補いその効果を増強する新たな治療法のいずれかのテーマで研究します。実験計画、実施、結果の解釈と分析、次の実験の方向性と項目を具体的に設定し、研究的な問いに対する答えを出していきます。週1回の講義によって他分野の研究について理解を深め、自分のテーマ以外についても見識を広め考える力を養います。自考力、課題解決能力が要求され、それぞれを独自の方法によって修得できる/評価できる学修体系になっています。

<学修成果の評価方法>

学修の成果は講義、セミナーにおける出席、テーマについての討論、レポート作成等に加えて、普段からの研究に取り組む熱意、議論と組織人としての協働的な態度を重視します。最終的には完成した研究成果＝学位論文により総合的に評価します。

医学系（保健学専攻）がんプロ

がん免疫療法・がん予防のための免疫診断コース

修士（保健学）

カリキュラムマップ

	研究科学学習目標						1 年				2 年			
	専門性 と深い 学識	最先端 かつ高 度な	高度な 教養	高度な 国際性	高度な デザイン 力	独自の 学習目 標								
							春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期
高度な教養 ○医療専門職としてふさわしい高い倫理観と人間性を身につけ、常に医療のプロフェッショナルであるという自覚のもとに、社会の発展のために積極的に貢献できる			○				高度教養教育科目							
最先端かつ高度な専門性と深い学識 ○医療科学の領域で研究を遂行できる基礎学力と高度な専門性と深い学識・教養、高い倫理性を備えている	○			○	○	○	専門科目 がん免疫診断学 I, II、がん免疫診断学実習 I, II等 医療技術科学ゼミナールI・II							
独自の学習目標 ○免疫療法やがん予防において重要な腫瘍免疫能を評価する能力や個人個人の免疫能に基づいて個別化されたがん治療法を開発する能力を有し、将来の医療へ貢献できる研究を推進できる能力を有している	○			○	○	○								
高度なデザイン力 ○・学問の府たる大学としての自主性、独創性があり、研究の視点として理論と実証の両面を備える研究テーマを設定できる ・課題に対する新たな評価法を提案でき、問題解決能力を身につけ、基盤技術を構築できる	○				○									
高度な国際性 ○国際専門誌の読解力と、自身の研究の社会への説明能力を有している				○			高度国際性涵養科目							

修士論文発表会